ムスビの概念の普遍性を学ぶ

地方講師昇格勉強会

2019年7月21日

テキスト『ムスビの概念の普遍性を学ぶ』

「ムスビ」の概念

「ムスビ」の働き三つの構成要素

（1）二つのものは元来同一の
　　基盤をもつ
（2）二つは互いに寄り合う
（3）二つとは異なる新価値が生まれる

羽織を結ぶひも

（テキスト33頁後1行目）

「ムスビ」は自然界の最大の特徴

『植物に花が咲くと、動物であるハチが飛んできて、花の中で受粉が行われて、やがて実が成る。実が成ると、そこにいろんな昆虫や鳥がやってきて、その実を栄養源とし、豊かに成長する。さらに、その実の中に種があれば、それが遠方に飛んだり、動物に運ばれて新しい地に落ち、その植物もさらに繁栄する』

（テキスト79頁、123頁）

花とミツバチは助け合っている

「似非ムスビ」「フェイクムスビ」

新大陸の発見にともなう
奴隷制、人種差別、
インディアンへの白人教育

（テキスト125頁）

「似非ムスビ」「フェイクムスビ」

人間の食生活
「ブタが食べてください」、
「ジャガイモが食べてください」とは
寄ってこない

↓

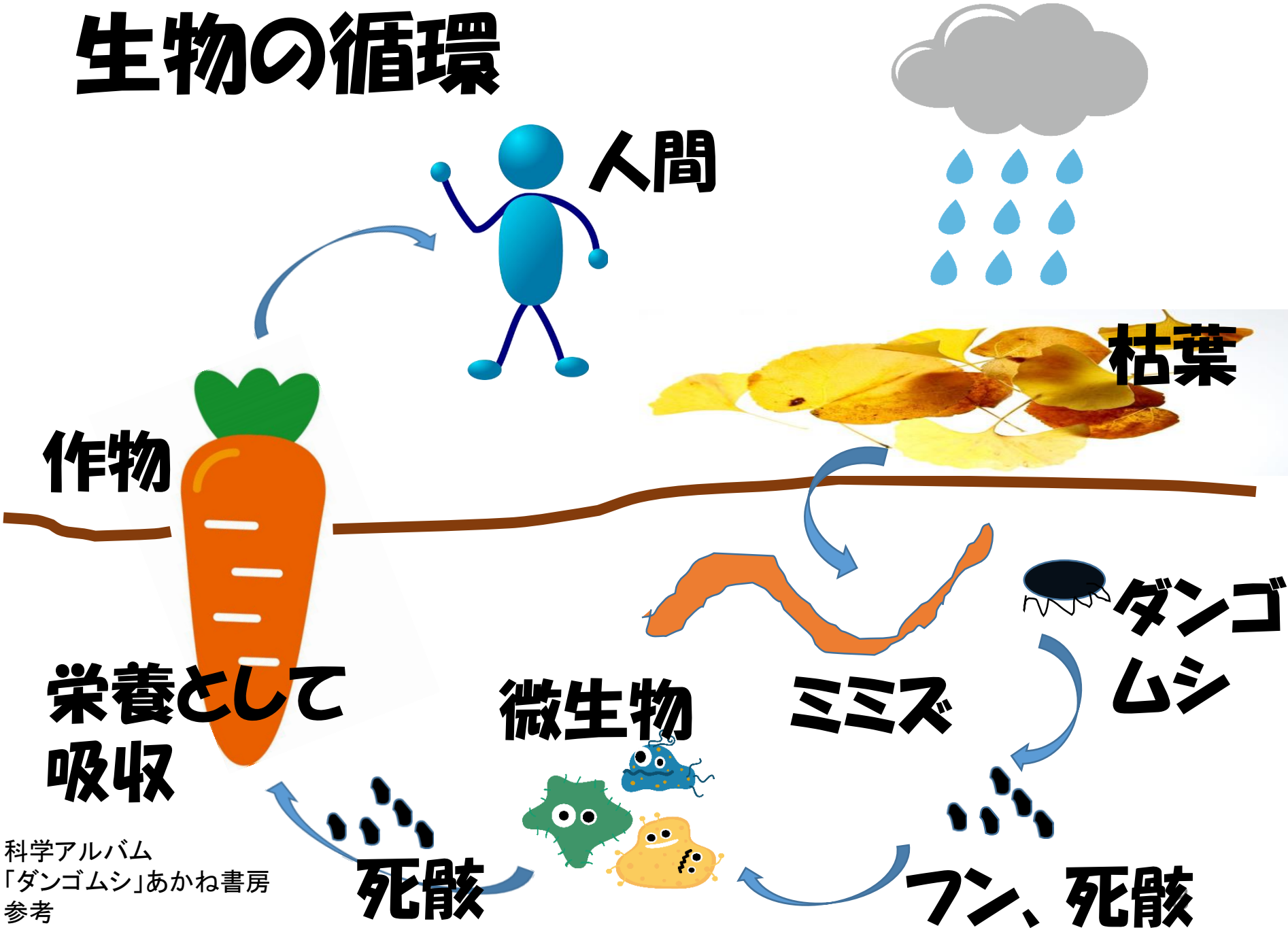
進化の永い過程で築き上げられた
両者の共存共栄のしくみ

（テキスト129頁）

『そもそも生命を維持するには基盤は緑色植物とともに、微生物やほとんどの小さな無名のいきもの、言い換えれば雑草や虫けらの大集団から成り立っているのだ。（中略）人類自体この生きた群衆の中に混じって進化してきた動物であり、かつ人間の体の機能は人類以前にすでにできあがっていた特定の環境に合うよう、念入りに調整されているからである』

（テキスト130頁）

生物の循環



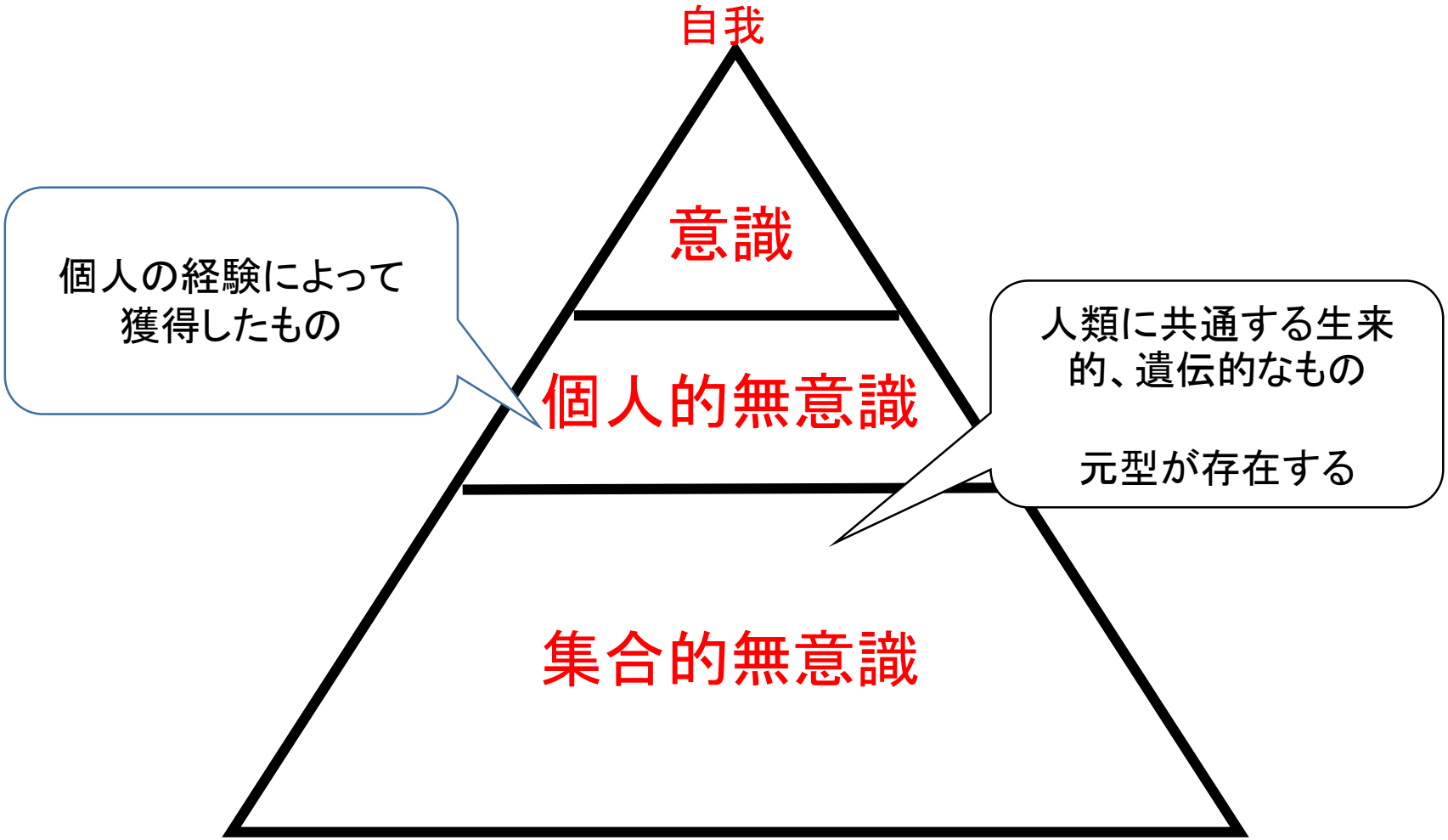
科学アルバム
「ダンゴムシ」あかね書房
参考

『生物種間の“仕組み”が人間の肉体機能を含めて、人間の他の生物種の生存にとって適した状態に調整されている』

『「すべての生物種」が寄り合っている状態が、地球自然のもともとの姿である』

（テキスト131頁6～9行目）

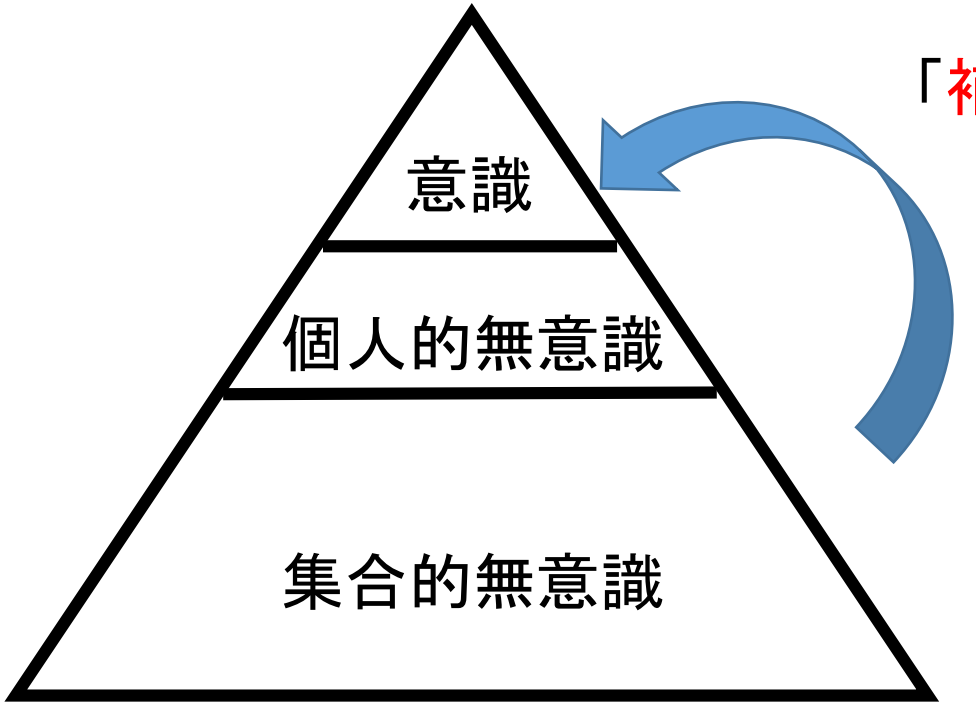
ユング心理学の意識と無意識



（テキスト22頁）

『意識が誤った態度や偏った態度をとった場合には無意識がそれを修正するように働く⇒「補償」』

（テキスト30頁10行目～）



「補償」

「補償」を通じて人格が発達するプロセス（※）を「個性化」（自己実現）と呼ぶ

（テキスト30頁後から4行目）

※「意識」が無意識の内容を理解することによって人格が発達する

（テキスト33頁6行目～）

『「補償」とは、私たちの無意識の中にある「自己」が、自我の偏向や不足を正そうとうとする動き』

↓

『（生長の家の言葉で表現）
自己内在の“神の子”の本性が、現象に囚われているニセモノの自分に対して「神の御心」を伝達する働き』

（テキスト158頁後から5行目）

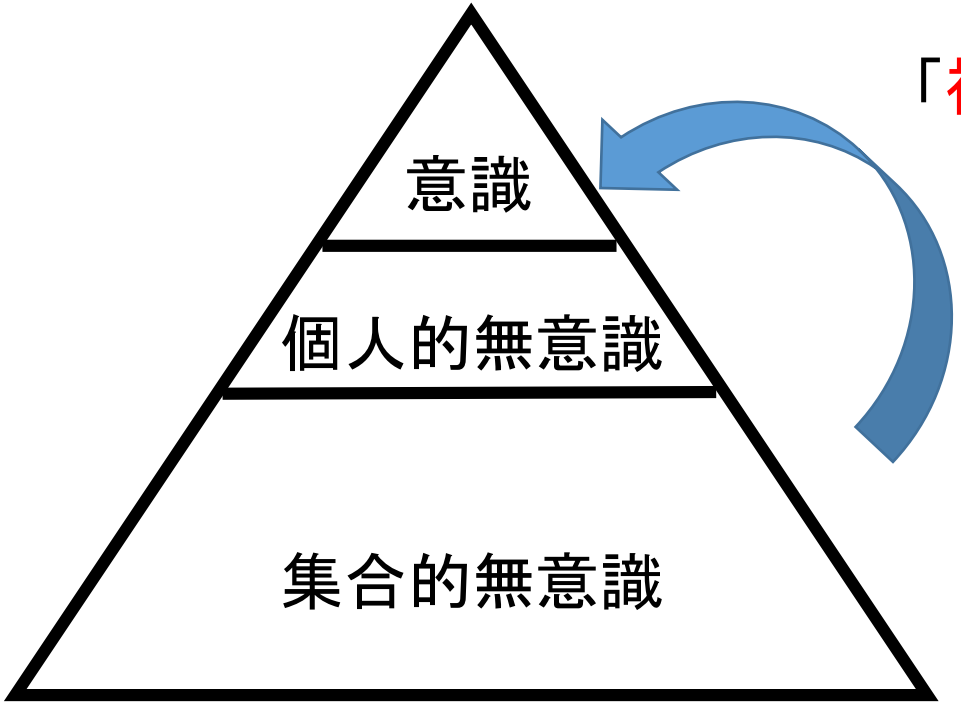
「個性化」のプロセスが「生長の家」が説いている「ムスビ」の働きと一致

ユングの心理学「個性化」⇒「ムスビ」と一致

（1）「意識」「無意識」は心で同一基盤

（2）「意識」と「無意識」が寄り合う

（3）人格が発達する、新価値が生まれる「個性化」

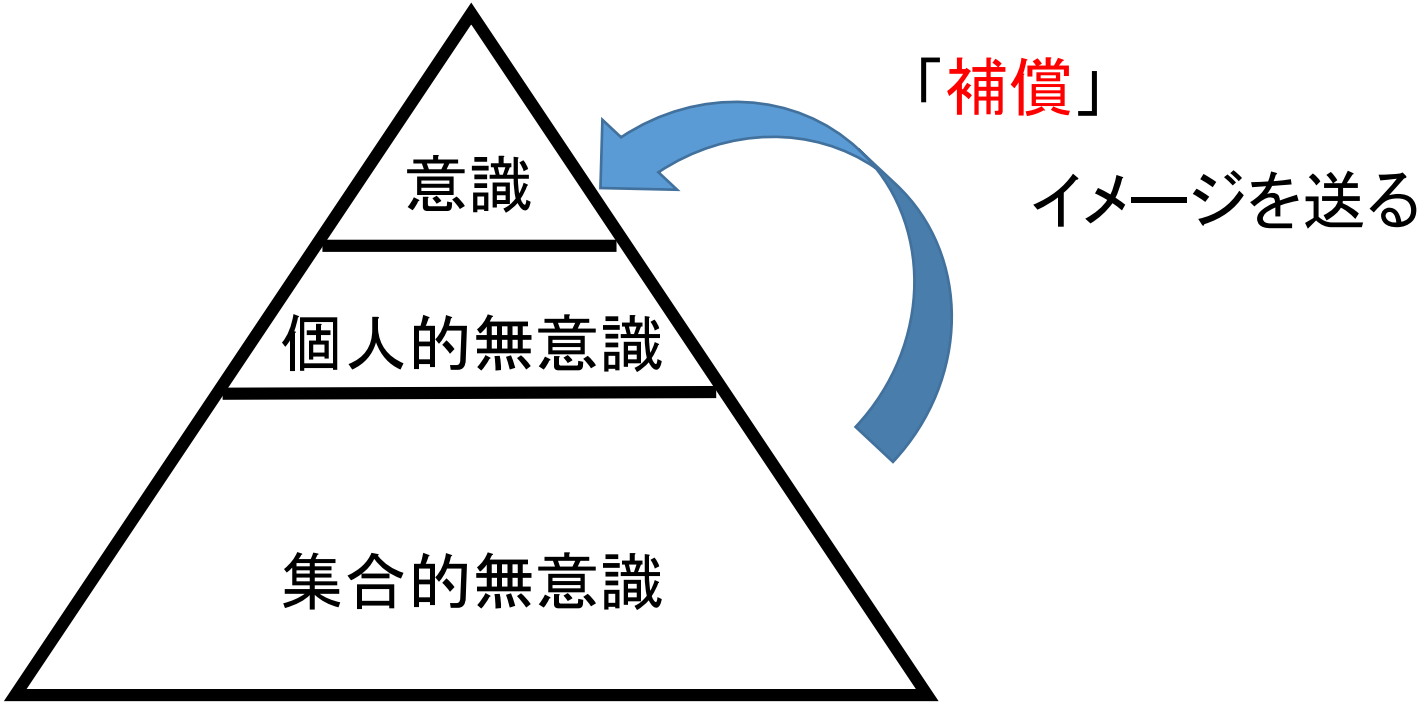


「補償」

「補償」を通じて人格が発達するプロセスを「個性化」（自己実現）と呼ぶ

（テキスト34頁3行目）

「補償」はイメージを「意識」に送り、そのイメージは個人の「意識」の態度に応じる



（テキスト38頁9行目）

個人の「意識」の態度に応じる

↓

観世音菩薩の働きと一致

観世音菩薩は山におらず
川におらず・・・・・・
汝の内に在るなり
（『大自然讃歌』）

（テキスト38頁後から6行目）

『ユング心理学における「個性化」の概念は生長の家が説く「ムスビ」に一致し、「補償」の概念は観世音菩薩の働きに一致する』4

（テキスト42頁後から2行目）

ユング心理学の概念		生長の家の教え	
		「ムスビ」の働き	観世音菩薩の働き
補償	人格が発達するプロセスを個性化と呼ぶ（自己実現）	一致	一致

『この働きが、私たち個人の心の
中で起こる最も重要で、
最も高度なムスビ』

ムスビが成立する第二条件
「二つは互いに寄り合う」

「自分」と「神の御心」が寄り合う

（テキスト158頁後から2行目）

『神の御心を聴いて、それを理解して自分のものにすることで、本当の意味での“新価値”が生まれる』

（ムスビが成立する第三条件）

（テキスト159頁）

ユング心理学の概念
「アニマ」「アニムス」

「アニマ」:
男性の心の中の女性像
規律正しい中に、やさしさ⇔弱さ

「アニムス」:
女性の心の中の男性像
柔軟な新しい考え⇔鋭い批判

（テキスト53頁）

「アニマ」「アニムス」と男性、女性が「結ばれる」ということについて

恋愛：

相手に自分の「アニマ」「アニムス」を重ね合わせて引き寄せられている

結婚：

自分のなかで「アニマ」「アニムス」的な面を発達させる

（テキスト61～64頁）

「結ばれる」（結婚）と「ムスビ」の働き三つの構成要素との関係

（1）二つのものは元来同一の基盤をもつ
　　⇒同じ人間、心を持つ
（2）二つは互いに寄り合う
　　⇒恋愛、結婚
（3）二つとは異なる新価値が生まれる
　　⇒家庭を持つ

（テキスト70頁）

ユング心理学の概念	生長の家の教え 「ムスビ」の 概念
アニマ	同等 学問的証左を与える
アニムス	

「結ばれる」という概念	同等

（テキスト73頁4行目）

「ムスビ」の働きを食生活に生かす

（1）二つのものは元来同一の基盤をもつ
　　⇒人間と食材は同一成分
（2）二つは互いに寄り合う
　　※共存共栄の仕組みの維持⇒
　　生物多様性の保全
（3）二つとは異なる新価値が生まれる
　　⇒新たな種子が生まれ、
　　人間の手で別の土地で植えられる

（テキスト77頁）

「マクロビオティック」（マクロビ）

玄米や雑穀、野菜、海藻などを主体に接種する食養法

マクロ：大きい、ビオス:生命

健康で長生きという意味

・健康志向

有機栽培、無農薬栽培、地産地消、生物多様性の保全の可能性を持つ

・肉食は否定しない

ムスビの概念が潜在

完全には合致せず

（テキスト84～92頁）

「スローフード運動」

画一的な生物種を大量栽培する工業的農業が生物多様性を守ることを批判し、それに代わるものとして、小規模な農家による伝統的な食料生産を推進

・生物多様性の保全・回復
・肉食は否定していない

ムスビの概念を含む
完全には合致せず

現代の食事における「ムスビ」の実践としてのSNIオーガニック菜園部の活動

（a）自分で有機農法で栽培したものを食べる

（b）化学肥料、農薬など、化石燃料由来のものをなるべく使わない食材を選ぶ

※共存共栄の仕組みの維持⇒生物多様性の保全

（C）地産地消・旬産旬消を心がけ、フードマイレージの低い食材を選ぶ

（d）ノーミート

（テキスト92頁）

「ムスビ」という概念は
日本固有の概念ではない

↓

今強調しなければならない理由

↓

世界が融和でなく、対立の方向に
向かっている。

自然と人間は神において本来一体である
にもかかわらず、自然から奪い、破壊する
ことで人間が幸福になるという考えから
抜け出せないでいる

（テキスト99～103頁）

「ムスビ」の原理を私たちが日常生活に表現し、仕事に表現し、さらには国際政治に展開することは何も不思議でなく、異常でもなく、自然で当たり前のこと

↓

自分と他とを外見によって
峻別する現実に対し

↓

人間は皆、神の子であるだけでなく、「神・自然・人間は本来一体である」という神の構図を伝え、生活や仕事に実践する運動の展開をしよう（テキスト159頁）